



【写真】定例総会ご出席のみなさん

【平成 24 年度事業報告及び決算報告案について】

「事業報告書(案)」及び「年間活動報告(案)」両案は承認、可決されました。また「決算報告書(案)」等も審議の末すべて可決され、梶村理事より、平成 25 年 4 月 25 日両監事による監査が実施された旨報告があり、出席者全員これを承認しました。

【平成 25 年度事業計画案について】

事業計画案において研修参加希望者の選定にあたり英語力評価基準として TOEIC を活用すること、応募者の語学力アップに資する相談・支援プログラム等の実施が提案されたが、いずれも今後の検討課題とし、平成 25 年事業計画案は可決されました。

【平成 25 年度事業会計収支予算案について】

ニューズレターの印刷・発送を外部委託する必要が生じたため、「通信運搬費」の増額を認め、また会費納入には会員各位の一層の協力を仰ぐことを確認し、平成 25 年度予算案は原案のとおり可決されました。(なお 2013 年度の会費納入状況は 7 月 31 日現在 35 名分 117,000 円(複数年分含む)となりました。早期の納入へのご協力有難うございました。)

【役員人事について】

小林茂理事の一身上の都合による退任願を承認し、加納光子会員を後任理事として現役員の任期期間中での就任を承認いたしました。

【報告・協議事項】

1. PEP (日本に研修生を招いて行う交換研修) アンケート調査結果報告
理事長より調査結果概要が報告され、未経験故の疑問があるものの実施反対の意見が無かったため、他国の経験を参考にしながら、2015 年度の実施を目指して検討準備を進める意向が説明されました。今後、具体的に実施を検討するための委員会を設立し、5 名の委員を決めることとなり、参会者から竹内理事、坂本理事、坂岡理事が委員参加を了承し、他に会員中より青木秀美、青木雅子両会員に委員委嘱することとなり、了承されました。
2. 今までニューズレターの編集・印刷・配送作業を担当されてきた浅野理事が事情により担当困難となられたため、今後は会員の自主的協力を仰ぎつつ当面は作業の外注を視野に置き、坂本理事、坂岡理事が中心となり紙面規模を縮小して発行を継続し、事後再検討することとなりました。
3. C I F 国際大会 (於アンカラ) へ日本から 4 名が参加すること。大会開催中の「マーケット」への出展品提供依頼が理事長より行われました。

以上

第30回 CIF インターナショナル国際大会（於トルコ）報告



【写真】開会式、講演会などの全体会議場の光景

理事 梶村 慎吾

2013年6月3日から8日までトルコの首都アンカラで標記の大会が開かれた。日本からは3名の会員と家族1名の計4名が出席した。会議はアンカラ郊外のブユク・アナドル・ホテルで開催された。今回の大会のテーマは「グローバル世界にお

ける出会いーソーシャルワーカーとヒューマンサービス従事者にとっての脅威とチャンスー」であった。名簿によると参加者は、合計191名であった。

【1日目】開会式と歓迎イベントのあと、トルコの大学の経済学や社会学の3教授によるテーマに関する発題講演と CIF インターナショナルの元会長ドメニコ・アントニオ・メローラ氏によるパレスチナとイスラエルの和解のための CIF の働きについての講演があった。

上記発題講演は、トルコがアジアとヨーロッパをつなぐ歴史的地理的位置から、東洋と西洋、豊かな世界と貧しい世界、都市と農村、様々な民族等、多様な問題を背負ってきており、近くは外国への労働移住や様々な形態の外国からの人々の流入等を経験し、そこから社会的・経済的・人口統計学上の、また多様な人々の出会いの中で生ずる人権に関し、解決すべき諸問題を抱えている。多様な民族間の触れ合い、相互作用の中で育ってきているものの可能性についてこの大会で深められることを期待しているというものであった。

【2日目～3日目】大会のテーマに関し合計30のワークショップでのプレゼンテーションが6会場で行われた（2度行われたものもある）。最大限6回のワークショップに出席できた。私は、インドの発表者による「インド・多様性とアイデンティティ」、青木雅子氏の「認知症の困難ケースに関する解決法」、トルコの発表者による「イギリスの路上生活少女少女に対するインタビューによる調査技法について」、イスラエルとパレスチナからの2人の発表者による「壁に遮られた両側からの物語（DVDによるドキュメンタリー）」とその後のディスカッション等々に出席した。それぞれ内容豊富であった。また、日本からは竹内和利氏による「巨大地震・大津波・原子力発電所事故との遭遇－2011年日本の経験」と題するワークショップも行われた。

【4日目】施設訪問があり、私は高齢者向けデイサービスセンター（家族・社会政策省管轄のアンカラ75. Yil Center）訪問に参加した。また、本大会で必ず行われる各国から持ち寄った品を販売してCIFの運営資金の一部とする趣旨の「マーケットオブネイションズ」も行われた。今回の会議は丁度トルコで政府の政策に対する反対運動のデモが盛んであった時期と重なり、会議の行われたホテルにも警官の姿が見受けられたが、大会への影響は感じられなかった。その他、報告したい事柄は多々あるが与えられた紙面の関係で省略する。

以上



【写真左】国際大会が開催されたアンカラ郊外のブユク・アナドル・ホテル前に参会者全員が集合して記念撮影

C I F 代表者会議報告

理事長 竹内 和利

5月31日朝、会議が始まる直前に到着。今回出席はトルコを含めて23支部。議長はエドナ会長が3日間すべて務められました。初めに物故者に黙祷を捧げ、出席者全員の短い自己紹介の後早速議事に入ります。冒頭は前年のタンザニア会議議事録の承認を巡る審議。事前にすべての議題について各支部宛にメール添付で数十頁に及ぶ資料が送られています。その資料のおかげで審議時間はかなりコンパクトに進められました。どの議題にも必ずとっていい位、発言がみられ、議案の素通りはありません。

6月1日午前中は、会長報告、事務局長報告とつづき、昨年以来のC I F全体及び各支部の経過がパワーポイントを用いて報告されます。連絡の途絶した支部の問題、昨年のタンザニアでの問題などが含まれていました。その後、財務担当者の状況報告と今年度予算の説明があり、短い休憩を挟んで、「ワールド・ニュース」担当者からの報告と各支部への配布部数の確認、広告の掲載について提案があり、今後各国へのWNの配布部数は支部から納付する年会費に準ずることになりました。次に米国C I P代表からC I Pの取り組みの経過と計画が話され、今年度中国からの参加者をC I Pに多く呼び込むため、参加者募集に中国を訪問する計画が表明されました。午後からは、順に募金委員会、役員選挙委員会、倫理問題委員会と委員会報告が続きます。

6月2日は朝から5時間以上に及ぶ定款改正をめぐる審議で、会長とオランダの代表が中心となり修正項目ごとに挙手による表決が行われました。この修正内容はこれまで数年にわたりBD会議で継続審議されてきたものです。この後、本大会での総会審議に付されます。続いてミンモ前会長によるPeace Projectの経過説明、次年度のBD会議開催場所(チューリッヒに決定)。2015年度国際大会は後日C I Fスウェーデンが検討を表明。この日は夕食に続いてアンカラ大会の説明、新しい支部立ち上げの状況、国際社会福祉学会でのPR活動の報告など、PR委員会の多彩な工夫や試みが発表されました。

3日目は、内部及び外部監査報告が30分程度粛々に行われ、最後はPEPの現状と課題について3時間ほど費やし、マニュアルの再検討、各支部が当面する課題等を審議しました。4つのグループに無作為に分かれて同じ課題を一斉に話し合い、そこで出された意見、提言が模造紙に書き上げられ検討内容とされました。各支部がPEPに熱心にチャレンジしている様子を目の当たりにした次第です。この後、会議はエドナ会長が全員に謝意を表され3日間の幕を閉じました。

なお国際大会開催中にC I F次期役員選挙が実施され、役員に選ばれ方々は次のとおり：

President	Ms. Mireille Boucher (CIF France)
Vice President	Ms. Maria Christopoulou (CIF Cyprus)
Secretary	Mr. David Reinier Scheele (CIF Netherlands)
Treasurer	Ms. Gabriele Kronberger (CIF Austria)
Members at Large	Mr. Michael Cronin (CIF USA)
Same as above	Ms. Rabia Ozbas Durak (CIF Turkey)



【写真】3日間に及んだ代表者会議の光景

2013年度会費納入・寄付ご協力のお願い

2013年度会費が未納の会員各位には納入をお願いします。(年会費 3000円)

郵便振替口座 番号 00270-4-54121

加入者名 CIF ジャパン

銀行口座 三井住友銀行八王子支店
(店番号 843) (普) 7815136

口座名義 CIF ジャパン出納責任者梶村慎吾

初めての国際大会の印象 —家族的な CIF の温かさ—

青木 雅子 (2011年スコットランド)

今回私は初めて CIF の国際 Conference へ参加いたしました。初めて参加させていただいた CIF の第一印象は、“世界が1つになった温かい家族のようなもの”でした。私は当初仕事が多忙なためプログラムのすべてに参加することが不可能でした。しかしながら、その後予定を変更しフライトチケットも再購入し全期間参加となりました。それだけの大変さもあつたためか深く有意義なすばらしい機会に感謝いたしました。

Conference での発表：私は論文のプレゼンテーションとワークショップをいたしました。タイトルは両方共に“Finding Solutions to Difficult Behavior in Dementia”でした。今回トルコからのリクエストの条件はいくつか選択肢がありその中の1つが“Conflict”でした。上記のタイトルにもあるように“Threats and Opportunities”も同調する内容として私の知る限りの内容ですが現場での問題点の1つを取り上げました。それは高齢者施設において認知症やほかの疾患により問題行動を起こす入居者に対しそれに携わる Co-Medical Worker はストレスを感じます。では、「Conflict することなしに問題の行動のある人とうまくしていくにはどのようにすべきか」考えました。それが今回の主旨です。初級の私の発表でしたが終了後何人か会員の方は関心を持ってくださり参考文献をその後添付ファイルにて送付することになりました。

スコットランド研修時の友人との再会：私は2年前スコットランドの研修の際、トルコから参加した友人に再会できました。私たちはプログラム上互いに多忙なため、短い時間でしたが彼女の家を訪問し、家族と共に温かい時間を過ごすことができました。

スコットランド研修での CIF メンバーとの再会：私はスコットランドの研修から福祉に対する考え方、優先すべきこと尊重すべきことが変わりました。そのときにお世話になった President や Host Family に再会し心から嬉しく感じました。

思わぬハプニングからの交流：私は各国が開催するマーケット（バザー）でドイツの民族衣装を購入しました。浅青色の南ドイツの民族衣装でハンドメイドのものです。日本発表の準備の後、服の袖が解れ切れていることに気がつきました。しかし Closing Ceremony までに袖を縫う時間がなく当惑しておりました。

そのため急遽その南ドイツの民族衣装を着て Ceremony に参加する事となりました。終了後ドイツの CIF の方々がお集まりになって非常に喜ばしい気持ちを伝えてきました。その中の特に一人の方は非常に弾むように喜ばしく私に話しかけてきました。その方の祖母のハンドメイドでした。

福祉に携わる私たちは「弱い立場の人の視点で行動する仕事」です。初参加の私は役員でもなく弱い立場であるのにも関わらず、多くの会員の方々は家族的な温かさを介して私を支援してくださいました。これは同時に CIF の会員皆さまが福祉の現場で「家庭的な温かさ」と「優しさ」を基にクライアントに対応なさっている証でもある事を実感しました。



【写真】「マーケット」における日本コーナー

【編集後記】

アア 暑いですネー。
何とか不慣れな編集を終えて、ホッと
しています。皆様の C I P 体験談、現状報
告など投稿、大歓迎です。(坂本)



【写真左】6月にキリスト教社会福祉学会が岡山で開かれ C I F メンバーで記念撮影しました。